

島本町教育委員会 会議録（令和3年第6回 定例会）

日 時	令和3年5月21日（金） 午前9時30分 ～ 午前10時30分
場 所	島本町役場3階 委員会室
出 席 者	中村りか教育長、高岡理恵教育委員、西山洋子教育委員、森田美佐教育委員、 西尾一実教育委員
委 員 及 び 事 務 局 職 員	（教育こども部）岡本泰三部長、安藤鎌吾次長 （教育総務課）廣井信弥課長、上月健史参事 （教育推進課）山田敏博課長、佐々木淳平参事、森悠介参事 （子育て支援課）南田篤志課長 （生涯学習課）奥野大介課長
欠 席 者	なし
委 員	
議 題 及 び 議 事 の 趣 旨	第21号議案 保幼小連携の推進について
議 決 事 項	第21号議案
教 育 長 の 報 告 の 要 旨	別紙議事録のとおり
そ の 他	傍聴者0名

教育長

本日、出席者は5名です。定数を満たしておりますので、令和3年第6回教育委員会定例会を開会いたします。

お諮りいたします。会議録署名委員は、島本町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、高岡教育委員に決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、会議録署名委員は、高岡教育委員に決定いたしました。よろしくお願いいたします。

それでは、第21号議案「保幼小連携の推進について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

教育推進課参事

それでは、第21号議案「保幼小連携の推進について」御説明いたします。「みづまろキッズプラン(3か年計画)」の資料を御覧ください。

現在、幼児期の教育・保育に関しては、幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づいて実施しており、教育目標は、「～を感じる」「～を味わう」といった方向目標となっております。教育課程は、遊びを通して5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を総合的に学ぶこととなっております。一方、小学校教育は、小学校学習指導要領に基づいて実施しており、教育目標は、「～できるようにする」といった到達目標となっております。教育課程は、各教科等の学習内容を系統的に学ぶこととなっております。このことが、幼児期の教育・保育と小学校教育の大きな違いで、小学校の入学当初の児童が持てる力を十分に発揮するためには、幼児期にどのように育ってきたのか、何をどのように学んできたのか、どのような経験をしてきたのかを知り、それをうまく活用した教育を進めることが大切であります。

幼児期での子どもたちの遊びたい、学びたいという気持ちを大切に、小学校においても、子どもたちが主体的に考えて選択できる力、他者を尊重する力、多様な考えを持つ人と対話し、合意形成を図る力等、自律・尊重・創造を柱にした「見えない学力」を育成することが、重要であると考えます。

幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実

施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるよう、カリキュラムの編成を行ってまいります。

具体的には、幼児期の「遊びや生活を通した学び」と「主体的に自己を表現する学び」をつなぐために、幼児教育としては、アプローチカリキュラム。小学校教育としては、スタートカリキュラムの編成を行ってまいります。両カリキュラム作成に当たっては、カリキュラム作成委員会を設置し、メンバーである教育推進課、保育所、幼稚園、小学校でカリキュラム作成を行ってまいります。また、大阪大谷大学教育学部 教授 小谷 卓也 氏には、カリキュラム作成に当たっての職員研修及び指導助言を賜る予定でございます。

工程としまして、本年度（1年目）については、アプローチカリキュラム（案）を作成。令和4年度（2年目）には、アプローチカリキュラム（案）の試行と、スタートカリキュラム（案）の作成。令和5年度（3年目）につきましては、スタートカリキュラム（案）の試行とアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの策定としております。その上で、令和6年度に、対象を小学校1・2年生、幼稚園・保育所の年長として、両カリキュラムを全校園所にて、実施する予定としております。

「みづまるキッズプラン（3か年間）」で、島本町の目指す子ども像（みづまるキッズ）と、子どもたちに付けたい力を明確にし、そこに向けて、本町が目指す教育・保育方針と内容について、幼稚園、保育所、小学校の教職員間で共通認識を図り、島本町の教育・保育の柱（幹）をつくりたいと考えます。

本日、教育委員会にて、「みづまるキッズプラン」について、御可決賜りましたら、校園所長を通じて、教職員へ「みづまるキッズプラン」について周知いたします。その上で、小谷教授を講師に招いて、幼稚園・保育所合同研修を開催し、カリキュラム作成もスタートさせる予定でございます。

また、松原市にある、学校法人・今川学園 木の実幼稚園や信州大学教育学部附属松本学園（幼稚園部・小学部参観）に視察を予定しております。

以上、簡単ではございますが、保幼小連携の推進「みづまるキッズ

プラン」の説明とさせていただきます。

よろしく御審議いただき、御可決賜りますようお願い申し上げます。

教育長

これより、本案に対する質疑を行います。質問がある方は、挙手をお願いいたします。

教育委員

4点よろしいでしょうか。まず1点目なのですが、「みづまるキッズプラン」は、どういう子どもを育てるのかというものを作成委員会の中で決められるのか、今、ある程度の形を持っておられるのかということをお聞きしたいです。2点目ですが、資料にあります「大切にしたいキーワード」のところの「合意形成」について、具体的にイメージできるように教えていただきたいと思います。3点目ですが、視察先について、どのようなことを先駆的にされていて、どのようなことを学びに行こうとされてるのかをお聞かせください。4点目ですが、気に掛けなければいけない子どもたちがたくさんいると思います。その子たちもこの中にしっかりと含めながらだとは思いますが、どのように考えておられるのかをお聞かせください。

教育推進課参事

1点目について、おおむね、新学習指導要領であったり、幼稚園教育要領・保育所保育指針で目指す指針は、ある程度示されております。もちろん、主体的に考える子ども像というところがございますが、具体的な子ども像は、今後、教職員間で明確にしていきたいと思っています。今現在、具体的な子ども像があるのではなく、そこは共通認識を図りたいと思います。

2点目の「大切にしたいキーワード」について、キーワードを5点並べているんですけれども、全て大人の意思ということであります。子どもがどんな子どもになってほしいのかという思いは、教職員、保育所の先生、幼稚園の先生、それぞれ持っていますので、お互い意見を聞いて合意形成を図り、みんなで作り上げていくというイメージで書かせていただいております。

3点目の視察先の目的でございますが、松原市でございます木の実幼稚園、ここは私立の幼稚園でございますが、こちらに関しましては、平成30年度に立ち上がりました大阪府の幼児教育センターと連携しており、大阪府の指導主事や、幼稚園の先生たちの研修先にもなっておりますので、そういったところからここを視察先選ばせていただ

きました。特に具体的にされていることは、本町が目指している子どもたちが主体的な学び、遊びというところを目指しておられます。行事が先に決まっているのではなくて、子どもたちの考えた気付きの中から行事を作っていく、運動会もその年によって全然違うものになってくる、もしかしたら行事を実施しない年もある、というような、子どもたちの思いを大事にしたプロジェクト型の幼稚園を実施しております。これは公立の幼稚園でも実施可能ということで、我々指導主事も研修を受けております。

それと、信州大学でございますが、カリキュラムによる幼小接続の研究をされているところが全国で4つございまして、新潟、岡山、東京お茶の水、信州長野で、一番最近まで研究指定を受けていたのが信州大学でございます。平成31年度まで研究指定を受けており、その後も実際に研究実施、研究を続けているということです。その中身ですが、就学前と就学後と一緒につなぐカリキュラムで、具体的には3歳から5歳までの遊びと、小学校1年生から3年生までの領域をつなげていく形で、幼稚園と小学校が併設されている附属の学校でございます。本町と自然豊かな環境が似ているということもございましてここを視察先に選ばせていただきました。

4点目でございますが、今の教育の内容は教科目標があって、そこに合わせていかないといけない。先にやることが決められているので、どうしてもそこに到達できる子、できない子という差が出てきます。当然、学力保証という面では行っていきますが、子どもの主体的な意欲を一番大事にすると考えたときに、そういったカリキュラムになるように、どの子も活躍できるような教育・保育を目指したいと考えております。そこが一番ポイントになってくるというのが今回の主旨でございます。記載がそのように見えないというところは、今後検討させていただきます。

教育委員

町立ではない社会福祉法人の保育所の方たちも、この委員会の設置の中に含まれているのかお聞かせ願います。

教育推進課参事

作成に当たりましては、公立の保育所、幼稚園と小学校で行います。あくまでも案でございます。実際に作成しましたら、その周知と協力ということも含めて、私立の方にはお願いしようと思っております。

保幼小連携であったり、組織の中では私立と連絡会を持っていますので、そこで連携を図っていきたいと思っています。

教育委員

「みづまるキッズプラン」の3か年計画を実施することに決まりました背景としまして、小学校の指導要領と府からの提案等を盛り込んでいるのかどうかをお聞きしたいです。あと、カリキュラムということですので、授業にも反映させていくつもりになっているのかと思うのですけれども、ホームルームや課外授業等に含められるのでしょうか。また、授業編成ですが、今でも大変な授業の多さだということも加味して考えられているのでしょうか。具体的にこういう案に成り立ったところをお聞かせいただきたいと思います。あと、3か年計画となっておりますが、なぜ3年と決められたのでしょうか。2年くらいでスタートしてもいいのではと思いますが、いかがでしょうか。

教育推進課参事

この計画のそもそもの背景でございますが、幼稚園と保育所、それぞれ教育保育内容が違うのですが、本町といたしましては、今年含めて3年前から、目指す子ども像について、幼稚園、保育所の先生との合同研修を数回実施して検討してまいりました。やることを決めるのではなくて、どういった子どもに育てるのか、という上位目的をはっきりさせた上で、幼稚園ではこういうことができる、保育所ではこういうことができるというような研修を積んでまいりました。その中で、小学校にこういった子どもたちが上がってきてほしいという未来を実現できたらと思っておりました。そういった背景があった上で、就学前と就学後の教育・保育に段差があることによって子どもたちがなかなか馴染めない、それを小1プロブレムという言い方をするんですけれども、そこでつまづいてしまう子どももいるということから、国も府も施策としてスタートカリキュラムとアプローチカリキュラムを出しております。具体的に申し上げますと、アプローチカリキュラムというのは、幼稚園の年長さんの時には小学校でうまく接続できるように保育をならしていくというのが目的でございます。スタートカリキュラムというのは、幼稚園、保育所の子どもが主体的な遊びをしているということで、小学校側が最初の1学期であったり、1年生の間は、子どもの実態に合わせて、時間の使い方も含めて柔軟に教育課程を組んでいくというものでございます。今の子どもたちに合った教育・保

育を作りたいというのがこの背景でございます。

2点目のカリキュラムの授業についてでございますが、近年いろいろな英語教育であったり、ICTであったり、たくさんの授業が入ってくる中で、どういったカリキュラムマネジメントをしていくのか、というのは大きな学校の課題でございます。もちろん、行うことが目的ではなくて、それを通してどんな子どもを育てるのか、どういった力を付けるのかということは、本町だけでなく国も府も課題意識を持っております。そういったところから、例えば、授業であっても、合科的と言いますか、クロスして行っていくイメージでございます。

3点目、なぜ2年ではなくて3年なのか、というところでございますが、教職員と一緒に地域の人も含めて取り組んでまいりたいと思っており、周知期間であったり、いろんなことを考えて、丁寧に進めていきたいと思っております。カリキュラムをこちらが作って、はい来年からということではなくて、あくまでも案ということで先生方に作っていただいて、それを試してみて、そこから確定する、といったステップを踏んでやっていくことを考えて、3年としております。

教育委員

「みづまるキッズプラン」すばらしいプランだと思います。学びが難しい子どもに対してもアプローチしていただけるということで、とても難しい課題だと思いますけれども、力を入れてしっかりと取り組んでいただければと思っております。1点質問がありまして、4つの要素というところで4番目に「環境構成」とあるんですけれども、こちらは子どもに対してなのか、教員の方々に対してなのか、それとも両者の方々に対してなのか、ここだけ想像がしづらかったので、御説明いただければ幸いです。

教育推進課参事

4つの要素というのは、2つのカリキュラム両方に共通するものでございます。その中の「環境構成」なんですけれども、これは委員がおっしゃるように2つの側面がございます。一つは、そもそもの遊ぶ環境であったり、学ぶ環境ということなんです。人数であったり設備であったり、体験等を重視します。今までは教師が教えやすいことを重視しておりましたが、そうではなくて、子どもが学びやすいかどうかというところで環境を作ってまいりたいと思っております。そう考えたときに、当然教師や指導者、大人の言葉掛けというのも、子どもの学びやすさ

に合わせた言葉掛けになってきますので、そういった面での大人の環境も変わってくるという認識でございます。

教育長

信州大学教育学部の松本の小学校ですけれども、1年から3年が教科ではなくて領域別になっております。つまり、国語とか算数とかいう教科がなくて、科学、言葉、身体、表現、この4領域で構成されます。保育所、幼稚園のお子さんを参観するに当たって、保育士、幼稚園の先生方に感心するのは、小学校は「こうすべき」という道がある程度頭にあって指示をしてしまうんですけれども、はっきりした時間を与えて、その中で子どもたちが興味や関心を持ったことを、上手にその瞬間をすくい上げて、次の活動へ発展させていくという手法が自然にできておられるんです。そういうところは、小学校の教師も学ぶべきだと思ってます。そういうやり方を小学校でも生かせないか、というのは思っておりました。

小学校に入ると同時に、机と椅子があって、教科に分かれて、それは遊びの中でいろんな学びをしてきた子どもたちにとっては大人の都合であって、そういうものだということで対応してくれているんですけれども、いろんな領域が混ざった遊びの中で過ごしてきた子どもたちにとって、最初は違和感を得るだろうし、しんどい部分もあるのかなと。配慮を要する子どもたち、いろんなお子さんがおられ、なかなかじめない子どもたちはしんどいと思います。なぜじっと45分間座らないといけないのか、と。そういう子たちの救いにはなるのかなということと、たっぷりとした時間を保証してあげるといのは、興味が途中でぶつ切りにされないの、すごく大事だと思うんです。なので、45分という枠に縛られずに、もう少しまとまった時間を教育課程の中で編成することができたならば、子どもたちにとって豊かな学びの機会にもなる可能性があるのかなと思ってます。

そういう意味でも、信州大がいいかと思えます。信州大は、異職間交流がとても盛んだった明治時代に、そのお金をこれから教育につぎ込むべきだといって、教育につぎ込んできたという風土、歴史がある土地柄だそうで、教育にはものすごく情熱を傾けておられるそうです。なので、そういうところで育った先生方も教育論をお持ちなので、そういう方々とお話しできるのもいいのかなと思います。もちろん、そこ

でなされているカリキュラムも参考にさせていただくために、資料をもらうというのも一つなんですけれども、体で風土というか、カリキュラムではなくコンセプト、理念、一番大事にしている根本のところを学んでこられたらいいかなと思っています。

それと、先ほどの時間制限なくというところですが、担当職員は「遊び浸る」と言うんですけれども、素敵言葉だと思ったので、「遊び浸る」がそのまま小学校に上がったときに「学び浸る」になったらと思っています。

そして、担当職員が挙げた4つの学校は全て国立ですが、公立でそういう教育課程を編成している学校を、私は広島以外の学校以外は知らないです。ですから、とても難しいことではあるかと思うのですが、その可能性を探る価値はあるのかなと考えています。

あと、委員がおっしゃった背景なんですけれども、これは担当職員も触れていたように、そもそも学習指導要領に合科的な授業、単元構成を進めていくべきであると記されていて、就学前の子どもたちの生活からごく自然にできるように、低学年であれば生活科を中心に合科的なカリキュラムをと言われているのと、総合的な学習を中心にして評価をクロスさせるような単元構成が学習指導要領においても進められています。例えば、6年生だったら、平和を考えるのにも、社会科の歴史で学ぶだけでなく、特活として修学旅行で広島に行き、そして、そこで学んだことを低学年、後輩たちにアプローチする際に国語科の力が必要になってくるし、アプローチする方法として図工や音楽も入ってくる。英語でオバマ大統領の広島でのスピーチを聞き取ったり、一つのテーマを考えるのにも多方面からのアプローチが可能になってきて、物事を見るときに複段的な視点が育つと思っています。今は高学年の話ですが、結局、保育所とか幼稚園の教育を見てたら、そういう活動はとても小さい間になされているのではないかと思います。

反対に、小谷先生という方が理科教育の発育の専門で、数少ない理科専門なんですけれども、幼児教育と小学校教育の原型のところを研究されている研究職で、御自身も足しげく幼稚園や保育所に通っては実際に子どもの観察をされた上で提案もしてくださっています。比較したり分類したり、生涯必要になってくる科学的な思考を幼児段階か

ら意識的に育てたのではないのかなと思います。発達というのは、保育所でこれから観察するのであれば、0歳から見ていたらいいかなと考えています。

公立学校では実現するのは難しいとは思いますが。担当職員の言うように、見えない学力の部分であり、ペーパー上に点数で現れるものではございませんので、評価・検証が難しいと思います。ですから、評価・検証をどうするかということは意識しておかないといけないと思っています。

教育委員

連携というのは、小・中もそうですし、ずっと課題がありますので、それを解消するすばらしい取組だと思えるんですけども、1・2年生までとのことですが、その後の学年は従来どおりになるのか、今後また検討が加えられることになるのでしょうか。今のお考えというのは、文科省の方向性で、答えのない社会に対してどういう子どもを育てていくかというところからあると思うんですけども、一方で、子どもが成長していく中で、答えが出せないといけない、いわば入学試験とかも出てくるわけですけども、どのように今の考えを生かしながら連続性を持たれるのでしょうか。

教育推進課参事

委員御指摘のとおり、そこが一番のポイント、ネックになってますので、1年生、2年生までを接続することによって、次の3年生、4年生は比較的スムーズに連携しやすいかなと思います。小学校でも1年生と6年生は全然違い、一緒に連携というのはなかなか難しいので、入口と出口のところをしっかりとつなぐことによって、なだらかになるのではと思います。

目指すところは、これからの答えのない問いをみんなで考えて、そこに力を付けていきたいと思っています。あくまでも10年後に生きる子どもたちが、社会で生きて働く力を付けて、幸せになってもらうために、一人一人違うと思っていますので、そこに合わせた教育をしていきたいと思っています。

教育長

委員の御指摘のところですけども、保護者の方からも「実際日本は受験があるから、テストがあるときに点は採れるんですか」とストレートな質問もあるかなと思うので、それに対してのお答えも考えていって、地域、保護者の方にもこれから説明していかないといけない

と思っています。

教育長

ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより本案に対する討論を行います。

教育委員

私も、カリキュラムを作るだけだったら3か年も必要ないのではないかと考えていたのですが、教育長が言われましたように、作りようによっては夢のあるプランになり得るのかなと思っています。そうであるなら、やはり町だけで進めるということではなくて、社会福祉法人を含めた方が協力を得やすいと思うんです。いろいろな委員会がありますが、その中に入ってる委員が他の人に勧めるときに同じ熱を持たないことが多いので、協力してもらえる人を一人入れておかれる方がいいかと思います。本来は町の保育所に入れたいと思っていたけれども、そこに空きがなくて社会福祉法人の保育所に入れている親御さんもおられるかもしれないですし、小学校に上がる時は同じようにしてほしいと思うので、協力レベルではなくて町一帯レベルとして取り組めるような枠組みを初めに作ってもらえるとすごく有り難いと思いました。それからもう1点、国で決めた保育指針やいろんな要領等があるのは知っていますが、先ほども信州の土地柄というのがあるというお話でしたので、できたら島本町の土地柄を生かしたプランを作り上げられて、島本町が視察対象になるように作ってもらえたら有り難いと思います。私もぜひ信州に行ってみたいと思います。

教育委員

「みづまるキッズプラン」に関しては、これからも幼保連携も視野に入れて考えていかなければいけないと思っているので、とてもいいのではと思います。幼児教育と小学校をつなげるということで、理想に思っていることもたくさんあると思います。理想を具体的にどのようカリキュラムに落とし込むか、というのが重要になってくると思います。理想と実際の差を縮めるという意味でも3点ほど気になるところがありました。

1点目が教職員との共通認識についてです。実際に作成委員会のメンバーの中で先生に来ていただいて、研修を行っていくのはいいと思うんですけれども、教職員の方々はそれぞれ思うことがあると思うん

です。いろいろと思うことのある教職員の方々と共通認識を合わせていくというのはなかなか難しいところで、作成委員会だけが独り歩きしてしまつては元も子もなく、現実に地に足が付かないと思うんです。なので、その連携をどうするのか、どうやって落とし込んでいくかというところが、これから考えていかないといけないところかと感じました。

2点目、信州大学や松原市の木の実幼稚園について、先ほどの御説明で授業という枠組みがないというお話がありましたけれども、こういう理想像ということで、人間形成という意味ではすごく道徳的な理由もあるかと思うんですけれども、やはり指導要領はある程度国単位で決められていますし、受験ということも考えますと、授業として学んでいかななくてはいけない評価としての勉強というのはあると思うんです。その辺をどういうふうに、方向性として織り交ぜて持っていくか、こちらもなかなか難しいところだと思いますので、考えていかないといけないんじゃないかと思いました。

3点目でございますが、幼稚園と言えるところは一幼しかなく、幼稚園と保育所とありますけれども、その中でやっていくのはほんとに小さいところになってしまい、せつかくやるのであればもったいないという気がしましたので、島本町全体として、何とか社会福祉法人と連携して考えていく必要はあるかと思いました。

教育推進課参事

実際、今行われている学習の理想像というのはあります。そういった目的を達成するために、できることからやっていこうと考えておりますので、大きく何かいきなり変えるイメージではございません。あくまでも、この3年間を通じて共通認識を図るということが一番の目的ですので、作成の案の段階でやってみたけれども実態とそぐわないというようなことがあれば、修正していきたいと思っております。会議でも適時報告させていただきますので、また御指導のほどよろしくお願いいたします。

教育長

構成メンバーについては、再度検討させていただきます。

ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

教育長

ないようでございますので、討論を終結いたします。

それではお諮りします。本案は原案のとおり可決することに御異議
ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長

御異議がないようでございますので、可決することに決しました。

それでは、以上をもちまして、令和3年 第6回教育委員会定例会
を閉会いたします。